

アジア・新興国 ～南アフリカ与党の政局問題は収束するか～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹(にしはま とおる)



次期大統領選の前哨戦を期に与党は分裂状態

昨年末、南アフリカの与党アフリカ民族会議(ANC)の党大会及び議長(党首)選挙が行われ、ラマポーザ副大統領が新たな議長に選任された。ANC議長選は、2019年に行われる次期総選挙の後に行われる大統領選の事実上の「前哨戦」となる。他方、憲法規定上大統領は2選までであり、現職のズマ大統領は出馬出来ず、ズマ氏の元妻のドラミニ=ズマ氏が出馬して事実上の一騎打ちで選挙戦が行われた。投票では、ラマポーザ氏は2440票と過半数の票を獲得するも、ドラミニ=ズマ氏も2261票獲得するなど、ANC内の分裂が確認された。

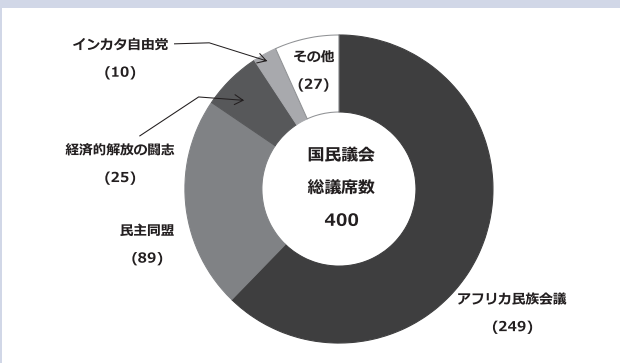
この背景には、ズマ氏自身を巡る様々な疑惑のほか、長期の景気低迷による経済格差の固定化なども影響している。ズマ大統領は巧みな議会戦術及び与党内の影響力などで疑惑の「火消し」に努めてきたが、反って国民からの政権支持率は低下基調を強め、ANC内の分裂状態に繋がった。なお、ドラミニ=ズマ氏自身は豊富な政治経験を有する上、同国最大部族であるズルー出身ながら人種間の格差解消を掲げるなど地方部の黒人を中心に支持を集めたが、ズマ氏が公然と支持に回ったことでズマ氏の「院政」色が強まるとの見方に繋がった。ANC内でズマ氏に批判的な層を中心にラマポーザ氏への支持が広まり、ANC内における分裂が抜き差しならない状況に広がったと考えられる。

ラマポーザ氏が党内をまとめられるかに注目

ラマポーザ新議長は反アパルトヘイト(人種隔離)を主導したマンデラ氏の側近として活躍した後、実業界に転身した。その後、2012年にANC副議長に転じて政界に復帰し、2014年からは副大統領職を務めている。こうした経歴から、産業界などはかなり早い段階から次期議長選挙を見据えてラマポーザ氏を推す姿勢を鮮明にしていた。他方、ズマ大統領を中心とするANC主流派は切り崩し工作を強めてきた。こうしたことから、ラマポーザ陣営は汚職対策の強化や経済活性化を公約に掲げるなど「反ズマ」姿勢を鮮明にした選挙戦を戦った。

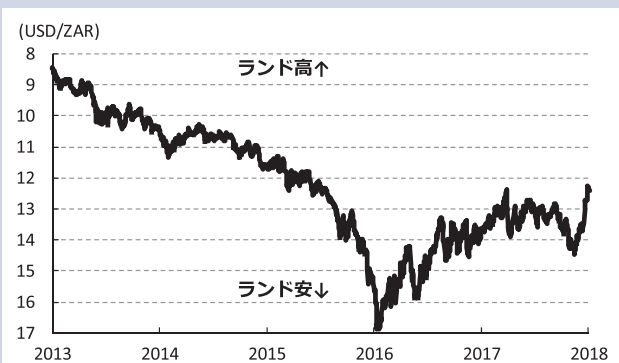
金融市場では実業界出身、かつ投資家にとって望ましい政策遂行が期待されるラマポーザ氏が勝利したことで通貨ランド相場は大きく上昇するなど、好意的な反応がみられる。ただし、一連の議長選を通じてラマポーザ陣営とドラミニ=ズマ陣営は苛烈な選挙戦を行ったことで、今後はANC内の最高意思決定機関も両陣営で分裂する可能性が出ている。仮にそうした権力闘争によって党内の政策策定及び意思決定が困難になれば、最終的な分裂も懸念される。また、ズマ大統領の任期は2019年まで残るなか、短期的に政策の方向性が大きく転換される可能性は低い。こうした状況を勘案すれば、先行きのランド相場は当面上下双方に動きやすい荒れた相場環境が続く可能性も懸念されよう。

資料1 党派別現有議席数の比較



(出所)各種報道などより第一生命経済研究所作成

資料2 ランド相場(対ドル)の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

内外経済ウォッチ